

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

## 「幸福学」実践のススメ

『幸福学の先生に、聞きづらいこと  
ぜんぶ聞く』

前野隆司

(システムデザイン・マネジメント研究科教授 著  
大和書房 / 1650円 (2022年12月)



著者が主宰する「ヒューマンシステムデザインラボ」は、人間に関わる幅広いテーマが研究対象となる。その重要テーマと言えるのが「幸福学」。統計学や心理学、脳神経科学など分野横断的にさまざまな知見を駆使し、「幸福な人」とはどんな人かを多角的に研究している。本書は研究から導き出された「幸福の条件」を、1人の青年の率直な疑問・質問に答えていく対話形式で解説する。恋愛、友人、お金のことなど幸福をめぐる数々の誤解を解きつつ、明日からでも実践できる、幸福になるためのメソッドを伝授。考え方と行動の両面から幸せになる道筋を示してくれる。

## 教職員執筆の最新刊

●池井優 (名誉教授) 著

『学問と野球に魅せられた人生―88歳になっても楽しく生きる』

芙蓉書房出版 / 2640円 (2022年12月)

●樋口広芳 (自然科学研究教育センター訪問教授) 監修

『じゃめく図鑑Pocket』ときめく小鳥図鑑

山と溪谷社 / 1100円 (2023年1月)

●駒村圭吾 (法学部教授) 編著

『Liberty 20―自由論のバージョン・アップはありうるのか?』

弘文堂 / 3080円 (2023年2月)

●安藤寿康 (文学部教授) 編

『教育の起源を探る―進化と文化の視点から』

ちとせプレス / 2530円 (2023年3月)

●阿久澤武史 (高等学校教諭) 著

『キャンパスの戦争―慶應日吉1934―1949』

慶應義塾大学出版会 / 2970円 (2023年3月)

●西野純也 (法学部教授) 編著

『激動の朝鮮半島を読みとく』

慶應義塾大学出版会 / 2200円 (2023年3月)

## 慶應義塾この一冊

シリーズ「総合政策学をひらく」

『総合政策学の方法論的展開』

桑原武夫 (総合政策学部教授、

清水唯一朗 (同) 編

慶應義塾大学出版会 / 2750円  
(2023年2月)



シリーズ「総合政策学をひらく」(全5巻)は、湘南藤沢キャンパス(SFC)開設30年を契機に、「総合政策学」の歩みと現在、将来に向けた展望を示す試みである。本書では、総合政策学の多様な研究方法をSFC教員たちが紹介。「いかにリアリティに迫れるのか」という一点に向かう手法の精緻化と「革新と創造」への取り組みへと読者を誘う。巻頭には執筆陣による座談会「総合政策学の方法めぐって」、そして巻末には『総合政策学の方法論』をもっとよく知るためのブックガイド」を収録した。